

施策 No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	高齢福祉課	主管課長名	太田 昇子
1-6	施策名	高齢者福祉の推進	関係課	健康推進課、社会福祉課、介護保険課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	高齢者が安心して健康に暮らしている。	高齢者(65歳以上の市民)	①65歳以上の人口	人	見込値	13,112	13,312	13,485	13,574	13,600
実績値					13,112	13,324				
				見込値						
				実績値						
				見込値						
				実績値						
施策の意図			成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
			①生きがいを感じている高齢者の割合	%	目標値	79.0	79.0	79.0	80.0	80.0
		実績値			75.1	72.0				
		②シルバー人材センター会員数	人	目標値	300	300	310	310	320	
				実績値	239	245				
		③相談に対して解決した割合	%	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	
	実績値			85.0	87.1					
	④認知症サポーター養成者数	人	目標値	428	428	428	428	428		
			実績値	329	303					
				目標値						
				実績値						
成果指標設定の考え方	社会貢献ができる環境を整え、健康寿命の延伸および生きがいにつなげる。日常生活の支援サービスを充実させるなど地域包括ケアシステム体制を推進し、増加する認知症患者への社会的理解を普及させるなど地域の支え合い作りを行う。									
成果指標の把握方法と算定式等	○①生きがいを感じている高齢者の割合は、市民アンケートより求める。②シルバー人材センター会員数は、年度末の登録実績より求める。③相談に対して解決した割合、④認知症サポーター養成者数は、年度末の実績より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>桜川市の総人口は減少する中、高齢人口は増加し、高齢化率は毎年、上昇し平成29年4月に30%を越え、本年度末においては、31.9%でした。そのような人口構成の中で、地域交流の中心組織である地区の高齢者クラブの会員の減少が懸念される。生きがいを感じている高齢者数は29年度のアンケートでは3.3ポイント増加したが、30年度は、3.1ポイント減少している。その一因は健康づくり・趣味活動事業への参加できる高齢者が減少したと思われる。シルバー人材センター会員数は28年度 250人、29年度239人、30年度245人と30年度は、やや増加しているが、ニーズ調査アンケートによると、高齢になっても働きたくないとの回答もあり、収益と趣味のバランスの重視が考えられる。包括支援センターの主事業である総合相談の解決件数割合は、87.1%と前年に比べ2.1ポイント高くなった。高齢化率が伸び、相談内容も複合的で専門性が求められている。認知症サポーター養成者は、28年の184人から 29年度 329人と大きく増加し、30年度では、303人とやや減少したが、講座開催に伴い、民生委員・小学校など幅広く地域全体での認知症への意識が少しずつ高まってきている。また、指標の実績値が昨年度より上回っているのは、②と③で成果としては、横ばい状態ではあるが、③の高齢者が安心して健康にこらせているの施策の意図に対し、相談に対しての解決した割合が、2.1ポイント上昇していることは、成果指標の中においても重要であるので実績比較を「成果がどちらかといえば向上した」とした。</p>		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	<p>高齢者が生きがいを感じている割合は、昨年度の75.1%から3.1ポイント下降し、72%で、目標値に届いていない。趣味や得意な分野での活躍の場が具体的にわからないのではないかとと思われる。また、シルバー人材センターの会員数については横ばいである。これはアンケートによると退職後まで働きたくないという意見からと思われる。また、地域包括支援センターでの総合相談解決件数は増加している。これは、相談内容が複合的であり、専門性が求められているが専門職が属属されているためと考えられる。認知症サポーター養成者は、28年度が184人であったが、29年度は、329人と大きく増加し、30年度においては303人とやや減少し、目標値428人を大きく下回っている。これは、茨城県が示す桜川市の人口に対する目標値であるためである。指標③は重要なものであるため、その実績値が目標値より上回っているため実績比較を「一部の成果指標値を上回った」とした。</p>		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
<p>貢献度評価の視点から30年度を振り返ると実績のあった事業は「総合相談事業」・「権利擁護事業」・「在宅医療・介護連携推進事業」・「認知症施策推進事業」であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合相談事業」では、専門職の向上、多職種連携により総合相談の問題解決率の上昇が図れた。 ・「権利擁護事業」では、高齢者の虐待や消費者被害などの権利侵害に対し専門的・継続的な視点から必要な支援に努めた。 ・「在宅医療・介護連携推進事業」では、在宅医療・介護を担う医療機関と介護関係者との一体的な連携とサービスが提供できるように努めた。 ・「認知症施策推進事業」では、住み慣れた地域で暮らせるよう認知症の早期診断・治療の支援体制を図った。 	<p>高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持ち、元気に暮らせることができるよう関係機関と連携し、介護保険サービスや在宅福祉サービス、家族介護者支援など高齢者福祉サービスの充実を図る。</p> <p>また、「地域包括ケアシステム」を構築し介護や医療が必要になっても地域で継続して生活できるように、関係機関(市役所・警察・消防・医療機関・介護施設・民生委員・ボランティア・地域住民など)との連携や地域での介護予防事業の展開、地域ニーズに沿った高齢者支援サービスの充実にも努める必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の経験や知識を生かして社会参加を希望する高齢者をマネジメントする仕組みが必要とする。